

1. 主な研究内容について

・運動機能回復学講座

医学的リハビリテーションの中核をなす理学療法学分野において、最も中心となる治療技術と理論の体系が運動療法学です。運動機能回復学講座では、運動療法学を研究分野の中心に据え、身体運動機能障害の評価と治療ならびに予防に資することを目的に研究を行っています。具体的には、筋力増強運動や伸張運動における筋の機能的変化、関節疾患や加齢による運動機能低下とその回復手段の開発、歩行能力向上や転倒予防について、特に重心移動能力に着目した研究活動を行っています。

2. 主な共同研究先

大阪急性期・総合医療センター，大阪大学医学部附属病院

3. 今まで指導した学位論文名（2019年度以降）

〈博士論文〉

2022年度：『着地衝撃に関与する筋力発揮能力の検討』

〈修士論文〉

2019年度：『呼吸負荷課題時の深層体幹筋活動量と運動パフォーマンスとの関連性についての検討』

『術後早期の人工膝関節全置換術患者に対する固有感覚刺激を用いた介入効果の検討』

2020年度：『下腿骨折後患者のアキレス腱の伸張性変化およびストレッチング効果に関する超音波画像による検討』

2021年度：『抵抗歩行が体幹筋活動と歩行パラメータに及ぼす影響』

『歩行時の体幹動揺に対する Hip walking の即時的効果』

『カーブ走における脛骨加速度と関節角度に対する足底板の影響について』

2022年度：『Short foot exercise が衝撃吸収機能と運動機能に及ぼす即時効果の検討』

『Static stretching が筋力および筋量に及ぼす効果の検討』

4. 主な論文・著書

- ・河村廣幸，小柳磨毅，淵岡聡：ここがポイント！整形外科疾患の理学療法 第3版，金原出版，2023
- ・淵岡聡：腰部脊柱管狭窄症の理学療法，福井勉ほか編：標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学 第2版，医学書院，218-231，2021
- ・淵岡聡：下肢切断者のリハビリテーション，上月正博ほか編：Crosslink basic リハビリテーションテキスト リハビリテーション医学，メジカルビュー社，328-334，2021
- ・S Fuchioka, A Iwata, Y Higuchi, et al. : A modified seated side tapping test in which the arms are crossed also reflects gait function in community-dwelling elderly. J. Phys. Ther. Sci, 29: 1598-1602, 2017
- ・淵岡聡，岩田晃：運動器の運動療法とは，小柳磨毅ほか編：運動器の運動療法，羊土社，12-13, 22-27, 2017
- ・淵岡聡ほか編著：今日の理学療法指針，医学書院，2015
- ・Fuchioka S, Iwata A, Higuchi Y, et al. : The forward velocity of the center of pressure in the mid-foot is a major predictor of gait speed in older adults. International Journal of Gerontology, 9(2):119-122, 2015
- ・H Kawamura, S Fuchioka, et al. : Restoring Normal Gait after Limb Salvage Procedures in Malignant Bone Tumours of The Knee. Scandinavian Journal of Rehabilitation Medicine, 31(2): 77-81, 1999

5. 現在指導している大学院生数

M1：1名、D3：2名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか？

- (1) 運動器疾患の理学療法臨床における「印象」や「疑問」の科学的解明・解決にじっくりと取り組む意欲と時間のある方。
- (2) 運動器障害の成因究明やその解決策に役立つ基礎的研究、運動機能障害の解析的研究に興味がある方。